

- 1 課題名 漁業資源・漁場調査と情報提供事業
- 2 区分 委託, 県単, 国庫補助
- 3 期間 昭和52年～平成26年
- 4 担当 資源海洋部 (安江尚孝・中地良樹・武田保幸・御所豊穂・土居内 龍・竹内淳一・芳養晴雄)

5 目的  
我が国周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

6 成果の要約

1) 試験方法

図1に示す主な調査漁協で、生物情報収集調査(マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、ムロアジ類、タチウオ、イサキ、トビウオ類、セミエビ)を行うとともに、海洋観測調査(卵稚仔調査含む)を実施した。

2) 成果の概要

- (1) マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、ムロアジ類、タチウオ、イサキ、トビウオ類およびセミエビについて、漁獲統計と生物測定データなどが継続収集された。結果は本誌の資料に掲げた。
- (2) 海洋観測データが継続収集された。結果は本誌の資料

に掲げた。

(3) 調査結果は、独立行政法人水産総合研究センター、各都道府県水産試験場および社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム(FRESCO)によりオンラインデータベース化された。

(4) 水産庁と独立行政法人水産総合研究センターが、生物情報収集調査のうち主要魚種(マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ)について、その「資源評価表」を策定し公表した。

(5) ムロアジ類、タチウオおよびイサキは、資源動向についてとりまとめ、独立行政法人水産総合研究センターに報告した。

7 成果の取り扱い

1) 成果の普及

主要魚種の資源評価については、水産庁と(独)水産総合研究センターによって公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やカタクチイワシ産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供された。

2) 成果の発表

第40回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議;平成21年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議;卵・稚仔、プランクトン調査研究担当協議会;平成21年度中央ブロック資源・海洋研究会

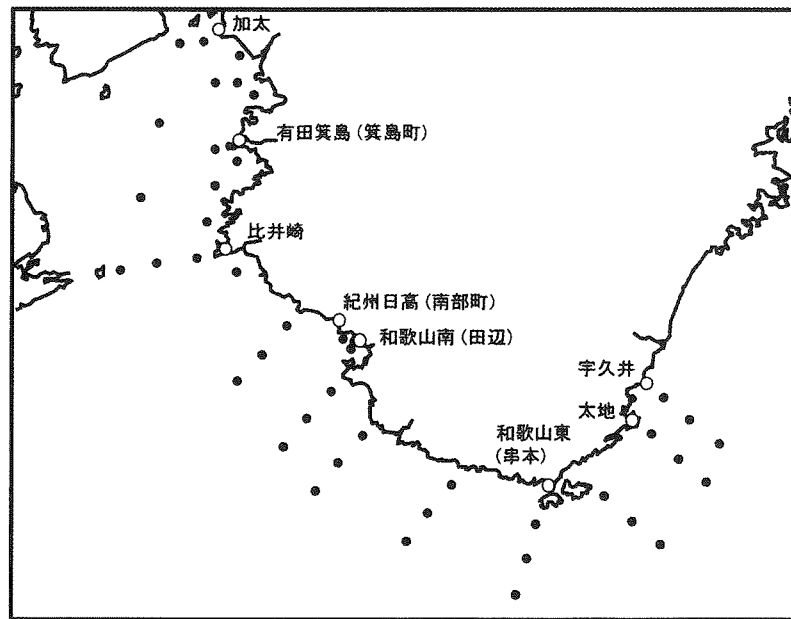


図1 主な調査漁協 (○) と海洋観測調査定点 (●)